

「創造」 黒木中だより 第13号

令和4年3月4日



八女市立黒木中学校
八女市黒木町北木屋60

☎ 0943-42-0109

編集責任者 山口 繁喜

3月3日は桃の節句・ひな祭り。雛人形を飾り、白酒(甘酒)や菱餅、ひなあられといった行事食を用意してお祝いすることが昔から行われてきました。「サザエさん」の中では風物詩として必ず出てきます。現代では五節句で、桃の節句と、5月5日の端午の節句(菖蒲の節句)、7月7日の七夕の節句(星まつり)、9月9日重陽の節句(菊の節句)が世代を超えて大切に扱われ続けており、お祝い事として行事を行う風習です。給食のひなあられやちまきが楽しみです。

作文

国語の授業と夏休みの宿題として、作文の取組を行いました。そして、その中で、2年生の さんの作品を学校代表として八女市人権フェスタに出品し、FM八女の放送を通して紹介されました。また、2年生の さんの作品は九州・沖縄ごぶん大賞を受賞し、また、FM八女で作家の安部龍太郎氏に高評価され、その後FM八女で紹介されました(右図)。この作品は裏面に印刷しています。下記の通り、そのほかの人たちの作品も入賞しています。



<JA 共済小・中学生作文コンクール>
優秀賞
入選
<中学生人権作文コンクール>
奨励賞

人権学習

年間を通して、計画的・組織的に人権学習を進めています。その計画のもと、2月25日に人権学習を行いました。1年生は「インターネットを通じたいじめ」を課題に、SNS上での具体的な事例をもとに、SNSの活用と危険性を知り、その対応策や解決策について班で考えました。他人事ではなく、



自分事として考える必要性を再認識しました。2年生は「水平社宣言」について学習しました。NHK「そのとき歴史が動いた」のDVDを視聴し、被差別部落の人々が水平社宣言に込めた思いや願いを知り、差別を乗り越えるために必要なことを考えました。3年生は「ヒデさんの結婚」を教材として、結婚のとき周りの人たちの「世間の目が」などの発言の裏にある差別性に気づき、差別をなくしていくために自分はどうするか真剣に考えました。

ところで、今年の3月3日は、「水平社宣言」がなされて、ちょうど100年になります。大正11年3月3日、被差別部落の人々の解放を目指して設立された「全国水平社」の創立大会で読み上げられた宣言文が「水平社宣言」です。



水平社宣言（一部要約）

「全国に散在する部落の人々よ、団結せよ。ここにわれわれが人間を尊敬することによって、自らを解放しようとする運動を起こしたのは当然である。われわれは、心から人生の熱と光を求めるものである。水平社はこうして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光あれ。」（滋賀県ホームページより）

宣言の原文は被差別部落出身の一人の若者が考えたもので、長い歴史の中で不当な差別を受けてきた人々の痛切な思いが綴られているだけでなく、すべての人があらゆる差別を受けることなく、人間らしく暮らしていける社会の実現を願う気持ちが込められています。

今は100年前とは違い、多くの人々が自由に意見を交わせる時代です。こうした時代だからこそ、水平社宣言に込められた当時の人々の願いに思いをはせ、全ての人の人権が尊重される豊かな社会をつくっていきましょう。

☆ 保護者の皆さまへ ☆

「冬来りなば春遠からじ」という言葉がありますが、特に3年生は、厳しかった受験勉強に耐え、今、まさに春のおとずれとともに一人一人の花が咲き、明日への希望を胸に飛び立とうとしています。1、2年生も3年生の後ろ姿を見て、たくましくなってきました。3年生の卒業後、さらに自覚が芽生えていくと期待されます。

1、2年生の保護者の皆様には、お子様方が学年最後の3月を充実して終われるようご支援をお願いします。卒業される保護者の皆様には、3年間、本校に対しますご協力とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。今後も本校教育に対しまして、これまでと変わりませぬ、ご厚情をよろしく申し上げます。